

ずいそう

四国遍路と石組の文化を訪ねて

四国

高倉寅喜



2014年、この年は弘法大師42才にして四国八十八ヶ所霊場を開創以来1,200年の吉祥の年に当たり、各寺では50年ぶりに記念行事も開催され賑わっていた。

四国遍路の歴史は「石」に、弘法大師の修行の歴史は「岩」に始まる。そして四国には歴史を刻む「石積の技術」に裏打ちされた景観も各所に見られる。趣味の写真撮影を兼ね四国遍路の傍らこれらを尋ね歩くのが大きな楽しみである。

四国遍路を訪れる人は年間30万人ともいわれる、歩き遍路からバスツアーとその手段は様々であるが、

四国遍路、その歴史を伊予河野家の古文書「与陽盛衰記」や「石手寺縁起」の中では「衛門三郎伝説」として語っている。石手寺の寺宝とされる「玉の石」の物語もここに語られる。

四国遍路は古くは弘法大師を師と仰ぐ高野山の修行僧が大師の足跡を辿る修行の場であった。それが庶民に一般化されたのは江戸時代以降とされる。そこには「四国遍路の父」と称えられる1人の僧「有舜真念」が大きな功績を残している。真念により編纂・発刊された「四国邊路道指南」は本格的なガイドブックとされ広く庶民に親しまれ、遍路道を整備し、そこに道標を設置し、遍路宿さえ設置している。これにより四国遍路が庶民のものとして定着し今日に至っている。真念の建てた道標は200基に上るといわれる。ここでも「石」が大きな役割を果たしている。

観自在寺は愛媛県最初の霊場である。ここから凡そ30分、西海半島の先端に「外泊」という集落がある。「美しい日本の歴史的風土百選」の一つ「石垣の里」である。入江に面した急斜面、段々に積まれた石積みが中腹まで続く、その上に建つ民家、民家の周りを軒の高さまで囲む石垣、台風や季節風から暮らしを守る知恵、石垣は台所の前だけ切り下げられ常に海の様子が見える工夫もされている。写真愛好家には一度は訪れたい景観の地である。



写真—1 外泊 石垣の里

宇和島市に属する三浦半島、国道56号から凡そ40分、半島の先に「遊子水荷浦」が位置する。「日本の重要文化的景観」とされる石積の景観、海岸沿いの集落の背後の急斜面、尾根まで続く段畑風景、400年の歴史、この風景も一時は荒廃の憂き目にも、平成12年「段畑を守ろう会」を結成し、景観保全に取り組み今では年間2万人が訪れる地となっている。



写真—2 遊子水荷浦 段畑

讃岐は雨の少ない瀬戸内気候、溜池の多い地域である。満濃池は弘法大師が修築した貯水池として有名であるが、観音寺市に豊稔池というダム湖がある。その石組の堰堤は「国の重要文化財」に指定されている。全国唯一の石組の5連マルチプルアーチダムは昭和5年の完成、自然と調和したその石組堰堤は、中世ヨーロッパの城を彷彿とさせるすばらしい景観。



写真—3 豊稔池堰堤

同乗2人、車を降り白衣を被り般若心経を唱え、そして結願、「また出かけようか」と思えるから不思議である。1,200kmの遍路道は「四国の道」や「四国自然歩道」としての整備も進められている。いつの日か歩き遍路に挑戦してみたいと思うこの頃である。